

◆スタッフあいさつ◆



真野秀太

田舎時間では新鮮な発見があります。まず、早起きの清々しさ。早朝6時半というストイックな時間に新幹線に乗り込み、初めは後悔するも、澄んだ空気に包まれたかみのやまに着くと本当に来て良かったと感じます。

次に、無心で働くことの清々しさ。果樹園で黙々と作業をしていると、いつの間にか無心になっています。常に時間に追われる生活をしている自分にとって無心で働くことは本当に気持ちが良いです。

そして、当たり前前の生活をするものの清々しさ。朝起きて、働いて、昼食べて、働いて、夜食べて、寝る。田舎時間に参加すると、この一見当たり前前の生活サイクルが実はとても重要だということに改めて気付かされます。

田舎時間に参加して早5年。一昨年に子供が生まれ少しペースダウンしていますが、これからも微力ながらスタッフとして関わっていきますので、末永く宜しくお願いします。

◆田舎体験事業報告◆

山形県上山市及び石川県穴水町での田舎体験活動は、毎年夏から秋にかけてハイシーズンを迎えます。今年も、農作業体験はもちろん、地域の行事に参加する機会も数多くいただきました！

<2008年7月~12月 活動記録>

8/23~8/24	ハザ建て(穴水)
8/30~8/31	堆肥運びと葡萄袋外し(上山)
9/13~9/15	稲刈り(穴水)
9/21~9/23	キリコ祭り(穴水)
10/11~10/13	ラ・フランス収穫(上山)
11/1~11/3	ツール・ド・ラ・フランス(上山)
12/13~12/14	牡蠣の棚作り(穴水)



キリコ祭り in あなみす

今年も、岩車地区の「キリコ祭り」に行ってきました。

キリコ祭りは、夏から秋に能登半島各地で開催されるお祭りで、神輿(みこし)の先導と後衛役として「キリコ」と呼ばれる巨大な御神灯を担ぎます。今回はそのキリコを納屋から出して組み立てる作業から体験し、また昨年同様、キリコの担ぎ手と片付け作業、翌朝の神事まで参加しました。

お祭りは、日もどっぴりと暮れた夜7時過ぎに御神輿が海を渡ってくるという、思いがけないシーンから始まりました。深夜1時まで地区のお宅を一軒一軒訪ねて練り歩き、最後は神社の坂を威勢よく担ぎ上げました。漆黒の闇の中をキリコが揺れ動く風景はなぜか懐かしく、とても幻想的でした。(上野禎仁)



ツール・ド・ラ・フランス in かみのやま

かみのやま名産「紅柿」がきれいな11月初旬の連休に「ツール・ド・ラ・フランス」に参加しました。今年で19回目のこのイベント、フルーツロードやスーパー農道を自転車で走ります。

田舎時間では初参戦！なんと、全員ママチャリで20kmコースに出場です。アップダウンのあるフルーツロードに息も絶え絶え。休憩スポットでいただくラ・フランスが本当においしく感じられました。

コースからの眺めも良く、吉田果樹園の近くでカモシカに遭遇というハプニングも。地元の皆さんと楽しむ、このイベントはオススメです☆

いつもの農作業とは一味違った田舎時間の楽しみ方はいかがですか？(佐野加奈)



◆ローカルNPOの活動支援◆

田舎時間では、メインの田舎体験事業のほかに、地域のNPO法人が展開している活動のお手伝いもしています。いなカエルの皆さんが参加できるイベントもあります。是非ご一緒にください！

のと鉄道運転体験

のと鉄道は、石川県の奥能登にある七尾駅ー穴水駅を結ぶ第三セクターの路線です。穴水駅にて30分程度の机上講習を行い、のと鉄道の職員の方の指導のもと、実際に運転をします。

運転を行うのは、穴水駅（終点）の先の線路です。200mの線路を2往復、合計800mを運転します。1回目と2回目の200mは、職員の方に言われるままに計器を操作、何とか発進し、わけも分からずブレーキをかけ終了。ここまでは運転しているというより、とにかく計器を動かしているだけで終わってしまった感じです。

しかし、3回目と4回目の200mは、だんだんと職員の方に言われる前に計器の操作が出来るようになり、余裕が出てきたため、ここでようやく「運転体験」が出来ました。運転体験後、運転台でポーズを取り、修了証に載せてもらう写真を撮ってもらいました。子供のような会心の笑みをしていました。（竹前健太郎）

※「のと鉄道運転体験」に関する最新情報は、<http://notobito.jp/nototetsu/> でご確認ください。

◆収穫祭のご報告◆

今年も11月8日、東京・表参道のフィッシュグロブさんの入ったビルの屋上で収穫祭を開催しました。全部で33名の方がご参加くださり、大盛況でした。

残念ながら天候には恵まれませんでした。初めての人も久しぶりの人も一つテントの下で混じり合い、和気藹々とした良いコミュニケーションの場になりました。今回も能登と上山からそれぞれ海の幸、山の幸をたくさんご提供いただきました。

能登半島の活性化に取り組むNPO法人「能登ネットワーク協議会」の方のお手伝いとして、11月1日～3日に開催された「かわさき市民祭り」と「鶴見西口オープンカフェ」というイベントに参加しました。

我々の役目は、ズワイガニの蟹汁（川崎）やサザエの壺焼き（鶴見）を販売すること。イベントテントの前を通る方々に声をかけ、蟹汁やサザエを買っていただくという、ただそれだけの作業ですが、子供たちが一生懸命食べているのを見たり、気難しそうなおじさんに「美味しかった」と言ってもらったり。一日のうちで何回も買って下さった方もいれば、御友人を紹介して下さる方がいたり。その一つ一つが新鮮で、素朴に嬉しいものでした。来年も、関東近県で開催されるこのようなイベントに積極的に参加する予定です。

興味を持たれた「いなカエル」の皆さん、来年は是非ご一緒にしませんか？（井上正将）



◇穴水便り ～新田信明さん～

毎年7月から10月にかけて、能登一円では切籠祭りが繰り広げられます。能登町の「あばれ祭り」などのように町を挙げての祭りもあれば、私の集落：岩車（戸数90戸弱）のような小さな祭りもあります。

能登町の「あばれ祭り」は切籠が50本ほど出て、大きな松明の回りを火の粉を被りながら勇壮に練り歩きます。

一方、私の集落では、家々の軒先に各家の家紋入りの提灯が掲げられ、灯りが少なく暗い集落をほのかに照らし出す中5本の切籠が静かに、時には「いやさかささ」という囃子に調子を合わせて威勢良く切籠を上下左右に揺すりながら練り歩きます。

この切籠は神輿の先導役としての働きを担っていて、大きな行燈をイメージしていただければ分かり易いと思います。午後7時過ぎに動き出してから夜中の1時頃まで、神輿と切籠は90戸の家々軒ずつに止まり、神主が御祓いをして回ります。幻想的な祭りで、今にも「トトロ」が出てきそうな雰囲気です。皆さんも一度参加してみませんか？

◇上山便り ～井上政幸さん～

我が集落には、地区をあげて年越しの餅つきをする民俗行事があります。正式名は、高松観音御年越（おとしこし）餅つき。農作物の収穫に感謝し、来る年の五穀豊穡と家内安全等を願う催しです。冬の最中、時には雪の舞う中、裸で餅つきをしていたので「裸もちつき」とも呼ばれています。今では建替えた公民館で餅つきができるようになり、寒風の中で鳥肌をたてながらというのは少なくなりました。その分、風情も少なくなったかもしれません。

それでも、大きな樺の木臼を使い、200kgのもち米を数人がかりで細杵を使って3回に分けてつき、つき上がりに餅を上にかざす「ささげもち」では、特に盛り上がりを見せます。冷めても硬くならない上質の餅ができ、これが終わるといよいよ新しい年を迎えます。

もちろん、我が家でも恒例の「餅つき」を通常サイズの臼で30日に行います。

皆さんも良いお年をお迎えください！

2009年も、上山、穴水での田舎体験事業をはじめ、東京近郊で開かれるイベントにも積極的に参加するなど、様々な企画を考えています。皆さんも是非参加してください。来年また元気にお目にかかりましょう。皆さん、良いお年を！



来年は丑年だけど、いなカエルは健在です。